

平成23年度宮古市立第一中学校 学校公開 音楽 指導案

<p>【自己課題】 聴取力を高めるための指導の工夫と教材の開発。表現力を高めるための指導とその評価の在り方。学習課題の明確化と提示の仕方についての工夫。</p>			
1. 実施日	11月11日(金)	2. 授業者・学級	芳賀郁夫 2年2組 男子14名 女子16名 計30名
3. 教科名	音楽	4. 題材名	曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう ～心の歌をとおして～
5. 題材の目標	<p>(1) 「浜辺の歌」「荒城の月」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。【関心・意欲】</p> <p>(2) 「浜辺の歌」「荒城の月」の拍子、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。【音楽表現の創意工夫】</p> <p>(3) 音楽表現するために必要な発声、発音、呼吸法などの技能を身につけて歌う。【表現の技能】</p>		
6. 題材の評価規準	<p>【音楽への関心・意欲・態度】 歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組むことができる。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気にふさわしい表現を工夫することができる。</p> <p>【音楽表現の技能】 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌うことができる。</p>		
7. 題材の指導計画 (全4時間)	<p>【第1時】 「浜辺の歌」「荒城の月」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持つ。</p> <p>【第2時】 「浜辺の歌」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受するとともに、歌唱活動を通して知覚・感受を深める。</p> <p>【第3時】 「浜辺の歌」の旋律(音のつながり方、フレーズ)と音楽を形づくっている他の要素を知覚感受し、そのかわりを考えながら音楽表現を創意工夫する。(本時)</p> <p>【第4時】 「浜辺の歌」と「荒城の月」を対比しながら表現の特徴をとらえ、歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かして、曲にふさわしい音楽表現で歌う。</p>		
8. 本時の指導目標	<p>☆ 旋律の音のつながり方やフレーズ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら表現を工夫することができる。</p>		
9. 本時と「自己課題」とのかかり	<p>(1) 課題設定の理由 1学年では、伴奏つきの混声合唱曲や「赤とんぼ」などの日本の歌を通して、歌詞の内容や曲想に触れ、声の出し方などを工夫して表現活動に取り組んだ。2学年においては、日本の歌を取り上げるのは久しぶりであるが、歌唱表現の母体である声にも落ち着きが見られ始めてきたころであり、そのよさを生かしながら、指導事項にあげられる「曲にふさわしい表現の工夫」を目指したいと考える。その声において様々な「使い方」が予想されるが、日常では比較的「使い方」まで工夫できずにいることが多い。そのため、表現力を高めるための一つの手がかりとして「聴取力」というものに注目してみた。授業において「聴取」することは、いわゆる「言葉」として表現せざるを得ないが、その場合に「なんとなく」と収めてしまいがちな生徒が多く、具体性に欠けることがある。本題材を通して、「問い」「思考」「音での確かめ」という活動から「なんとなく」をより明確なものとし、課題の解決に迫りたいと考える。</p> <p>(2) 指導の工夫・改善 教科書において「心の歌」と称される「浜辺の歌」「荒城の月」を通して、歌詞と旋律とのかかりから、どのように歌唱表現したらよいかを考える。歌詞に出てくる言葉をどのように旋律に乗せて表現するのか、ということに着目させ、その奏でられる音が視覚的にどのようになっているのか、それは実際にどのような音であればいいのか、などを学んでいく。手段として、模範となる演奏を聴き比べたり、さらに自分たちの演奏を聴いてみたりしながら、客観的な視点から思考判断していく活動を組み入れた</p>		

	い。また、音の形を紙板書など視覚的なイメージでいくつか分類させながら、場面に応じて必要な音の使い方を工夫させようと考えている。これら様々な音の形から生み出される音の組み合わせにより、旋律の流れ（フレーズ）が作られることにも触れ、曲全体の雰囲気を感じながらの表現活動に発展させていきたい。
10. 授業を観る視点	◎学習課題について、「音」の形が視覚的なイメージで「聴取」することができるか。 →聴取力を高めるための指導の工夫とその展開。 ◎表現において音の「形」が作られる根拠について考え、表現に生かすことができるか。 →表現力を高めるための指導の工夫とその展開。

11. 本時の指導計画

段階	学習活動	指導上の留意点（・）評価規準（☆）自己課題・授業を観る視点（◎）
導入 (10分)	1 既習事項の確認 (1) 「浜辺の歌」の歌唱 (2) 音楽を形づくっている要素の働きの確認（拍子、速度、旋律の音のつながり方やフレーズ、強弱） 2 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">旋律を作り出す音と音のつながりはどのようになっているのだろうか</div>	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を通して、曲の雰囲気を生かしながら表現できるように促す。 感じ取ったことが各要素の働きであることを確認する。 それぞれの要素の中で、雰囲気を作り出している要素へ関心を持たせ、学習課題へつなげる。
展開 (30分)	3 学習課題の検証 (1) 特定の音の形を視覚的に確認 <ul style="list-style-type: none"> 参考演奏を聴き、事前に確認したいくつかの音の形が、どのような形になっているか考える。 それぞれの音がどのような形になっていたか発表する。 それぞれの音の形が違う理由について考える。 4 課題への実践的取り組み (1)音の形を生かした表現の創意工夫（☆） <ul style="list-style-type: none"> 1段目の旋律ではどのような形が当てはまりそうか考える。（シートに記入） 音の形を表現に生かすとどうなるか試行してみる。（発表、共有） 	<ul style="list-style-type: none"> 音の形についていくつかのパターンを提示する。 図によるわかりやすい資料を提示する。 特定の箇所（歌詞の中の言葉でチェック）を確認する。 〈例〉  ◎学習課題について、「音」の形が視覚的なイメージで「聴取」することができるか。 ☆旋律の音のつながり方やフレーズ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら表現を工夫することができる。 ・感じたことと作詞者や作曲者の意図との整合性について、楽譜を通して確認する。（歌詞や楽譜の読み取りと表現との整合性） ◎表現において音の「形」が作られる根拠について考え、表現に生かすことができるか。
まとめ (10分)	5 学習課題のまとめ (1) 学習活動を通じた課題の整理 <ul style="list-style-type: none"> 本時の課題の視点から、学んだことを整理する。 他の演奏を聴き、様々な場面での学びの整合性について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ピアノで弾く旋律と比較してみる。 学習シートへの記入。感じたこと、考えたことに視点を与える。 表現の多様性について考えさせるとともに、「荒城の月」などの他の曲についても本時の学びが生かされるように促す。